

要介護1・2の人は申し込みも出来なくなるおそれのある中 上越市内の特養申込、要介護1・2は327人

私の所属する厚生常任委員会の審査は昨年度の決算を中心11日、12日と行われました。

医療機械整備計画(案) 初めて公表される

この中でいくつか注目すべきことがありました。そのひとつは、上越市の診療所における主な医療機械、器具等の整備計画(案)が初めて示されたことです。これは6月議会で私が求め、栗本修一健康福祉部長が計画づくりと公表を約束していたものです。

整備計画(案)は平成26年度から5カ年間に医療機械をこの診療所にどれだけ配備する

区分	待機場所			合計
	自宅	介護保険施設等	その他施設	
要介護1	31	66	18	115
要介護2	76	127	9	212
要介護3	135	177	24	336
要介護4	121	126	19	266
要介護5	92	123	29	244
合計	455	619	99	1173

特養ホーム入所申込者状況(7月1日現在)

※「介護保険施設等」には老健、療養型、グループホームなどの施設が入っています。また、「その他施設」には有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者住宅などが入っています。

かを決めたもの。計画(案)によれば、レントゲン撮影装置や超音波診断装置など主な医療機械を31台(総額1億3860万円)配備することになっています。

公表にあたって栗本部長は、「必要な機械が早く壊れた時には前倒しということもある。また、医療技術、機械等の進歩によって計画に載せてある機械とは別のものを購入することもあるので理解してもらいたい」とのべていました。栗本部長はまた、私の質問に答えて、「今後とも診療所の医師などと意見交換をしていく」とも答えました。データは、紙面の制約もあり、私のホームページに掲載しました。

待機者は 1173人

特別養護老人ホーム申込者の最新の状況についても明らかにされました。

要介護1の人が15人、要介護2の人は212人、要介護1から5まで全体で1173人。これが上越市における7月1日現在の状況です。厚生常任委員会で私はこの資料の提出

を求めるとともに、7月28



【センニンソウ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「仙人草」と書きます。私の散歩道で見かけました。比較的日当たりの良いところにあります。ボタンツルに似ていますが、葉にギザギザがありません。花言葉は「安全」ですが、全草に毒成分があります。

悪によって要介護

1、2の人は特例入所対象者以外の者は申込すらできなくなることを問題にしました。

「入所希望者の中で何人が特例対象に入るか」との私の質問

に八木智学高齢者支援課長は、「そこまでの情報は把握していない」と答えました。左上のデータは公開されたデータを私が編集したものです。

集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を

集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める意見書を提出してください。い……「子どもと孫の未来を考えた上での……」



会(代表は田中淳哉弁護士)上越中央法律事務所)の請願審査が17日の総務常任委員会で審査され、採決の結果、5人の委員が賛成(反対は2人)し、採択されました。

請願の趣旨説明で田中さんは、「この請願は集団的自衛権の行使の賛否を問うものではあ

りません。このような重要事項を憲法の手続きによらずに一内閣だけの判断で決めていいのかわからない。憲法に基づく政治を取り戻す請願だ。憲法の改正は国民の理解を得た上で行うべきだ」と訴えました。審査では一部に、「日本の周辺の情勢は厳しい。一國平和主義の発想では日本は守れない」などとして反対する委員がいましたが、大半は、「立憲主義に基づいてしっかり手続きを行うことは大賛成だ」「憲法は国家権力の暴走を許さない。政府は国民の声を聞いて結論を出すべきだ」などの賛成意見でした。議会としてこの請願を採択するかどうかは29日の本会議で決まります。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1675 2014.9.21
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三十三回

人魚

いくつになっても出会って気になる女性はいるものです。先日、林覚寺の脇を通って直江津の海岸通りに出ようとしたときでした。二〇ほど前方の女性の後ろ姿が目に入りました。その姿がいかにさみしそうで、とても気になりました。女性は大きな石の上に座っていました。でも、生身の人間ではなく、形からして明らかにブロンズ像です。いったい何なんだろうと思いつつも、その日は時間がなく、そのまま通り過ぎてしまいました。

この日の出来事は私のブログ（日記）などでとりあげ、「今度確認してみたい」と書きました。そうしたら、イラスト作家のひぐちキミヨさんと友人のHさんから、「いつもの彼女……、待ち続けてます」「誰を待ってるのかや〜」など次々とコメントが寄せられました。コメントを寄せてくださった二人は、明らかにその像が何なのかを承知していて、私が先入観を持たずにこの像のところへ行けるように配慮してくださったのだと思います。

翌日、三八市での宣伝行動を終えた私はブロンズ像がある公園へと歩きました。駐車場からほんの一分ほどのところにその像はありました。遠くから見たときの女性の像は少女が石に座って足をぶらぶらさせているように見えました。でも、それは足ではなく、魚の尾びれでした。そう、ブロンズ像は人魚だったのです。恥ずかしながら船見公園に人魚像があることを私は知りませんでした。

人魚のブロンズ像は二十数年前に直江津港事務所と上越市が小川未明の童話、「赤い蠟燭と人魚」にちなんで建立したものでした。高さは全体で一対八〇センチくらいです。ブロンズ像のそばに立ってよく見ると、人魚はやはり少女の顔立ちでした。彼女は両手で大きな白い蠟燭（ろうそく）を持っていました。「赤い蠟燭と人魚」の中に出てきたものと同じで、お宮さんにあげて、燃えさしさを保持してれば、災難から逃れることができるというあの蠟燭です。赤い絵の具で魚の絵などが描かれていました。左右に分けて垂らした長い髪、細い手は、いかにも弱弱しく見えました。髪を右前と左後ろに分けたせいでしょうか、ほつぺたの右から見るのと左から見るのでは何となく違う感じがします。彼女の目はやや下を向いていて、何か一心に考え込んでいるように見えました。「大丈夫かね」と声をかけたくなります。

この日は海風が強く、風の音とともに、繰り返し押し寄せる「ざぶーん、ざぶーん」という波の音が大きく聞こえました。空は快晴、居多ヶ浜や米山がよく見えました。もつとも米山は山頂付近が雲に覆われていましたが……。

何枚か写真に収めた後、私は人魚に触ってみました。肩は小さいものでした。私の母の肩よりも小さかったように思います。左肩はちよつと冷たく、右肩は逆に暖かでした。これはお日様があたためてくれたのです。髪は思ったよりも豊かでした。私は何度も人魚の頭と髪をなでました。

人魚のブロンズ像のそばにいる間、「人魚は誰を待っているのか」を考えました。童話の中では欲の深い人間に裏切られて悲しい運命をたどっていましたので、待っているのは海にすむ仲間たちだと思っていたのですが、ブロンズ像から離れて駐車場に行くまでに歩道脇の茂みの中に野菊の花が咲いているのを見つけてハッとしました。一度裏切られたとはいえ、人魚が待っていたのは人間だったのではないか。人間の持つ本当の優しさにもう一度ふれたかったのではないかと。

福永十三郎展を見てきました

ライオン像のある旧直江津銀行の建物内で開催されていた直江津の義人、福永十三郎展を13日、見てきました。ひぐちキミヨさん、佐藤和夫さんから説明していただき、とても

有意義なひと時を過ごすことができました。

この日の展示で注目したことのひとつは「しよいかご」です。これは石炭を運ぶときに使ったと言いますが、私の人生で一番最初にアルバイトでお金をもらったのが、「しよいかご」での石運びだったのです。高校時代だったと思いますが、現場は尾神岳のふもとの砂防工事の場所でした。もうひとつ、年表のなかにあった「やきもち火事」の記述も注目

しました。直江津の町は何度も大火にあっていますが、「焼き餅」だったのか、嫉妬だったのか、気になります。家に帰ってから年表を繰り返し読み、福永十三郎のすごさを改めて感じました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月10日(水)	9月17日(水)
上越南消防署	0.036	0.036
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.047	0.056
頸北消防署	0.043	0.047
東頸消防署	0.060	0.060
高士分遣所	0.043	0.043
名立分遣所	0.050	0.046



秋ですねー

直江津や高田の朝市には季節感のあるものが並びます。このツルウメモドキもそのひとつ、秋から冬にかけて家の中などに飾るものとして人気があります。

このツルウメモドキを売っているのは妙高市の古川敏継さんです。